



北部病院だより

Showa University Northern Yokohama Hospital

100号記念号



病院周辺風景（2001年開院当時）



巻頭の言葉

病院長

世良田

和幸

「北部病院だより」は、開院2年目の2002年8月に第1号が発行されました。その巻頭言は、初代病院長である黒川高秀先生が書かれています。その当時の広報委員会の委員長は、今は亡き泌尿器科の島田誠先生でした。それから15年、様々な変遷を経て、今回100号の記念誌を迎えることになりました。黒川先生は、“病院には、優秀な知識・技術と共に、最も人間らしい相互理解と信頼が常に生きていなくてはなりません。本院が成長を続けるとすれば、それは自分の医療を本院に託される方々と病院教職員との間に生まれた最良のハーモニーの結果にほかならないと言えます。”と記されています。この精神は、今日まで脈々と流れており、現在の北部病院の礎となっていることは間違いありません。

北部病院も今年で開院16年目を迎えています。院内も様々な変遷を遂げており、当初あった放射線専門学校は閉校となり、その後にはマタニティハウスが開設され、助産師を中心としたお産で年間900人近くの子供たちが産声を上げています。病棟稼働率は、病院全体でも90%を超え、手術件数も年間では8000件を超える勢いです。これらの数値は、医師をはじめとして、コメディカル、パートの職員を含めたこの病院に集うスタッフの努力の賜と考えています。この病院のキャパシティとしてはまだまだ伸びしろはあると確信はしていますが、疲弊しては離職率などに対する様々な影響が考えられます。すべての職員が、北部病院に勤めることを誇りに思えるように、また、この病院に勤めていて良かったと思えるようになるように私自身今後も努めていきたいと思っています。

私は、教育や考え方を伝えるときは、水の流れと同じように低い方に流れて伝わって行くと考えています。患者さんたちから思いを聞くときは、患者さんたちよりも少し目線を下にして、そして医療や指導を行うときは患者さんたちとしっかり目線を合わせてお話が出来ればと思います。北部病院を受診する患者さんたちすべてが、“この病院を受診して良かった！”と思えるようなそんな病院になれるように、みんなで切磋琢磨していこうではありませんか！

北部病院理念

かけがえのない心身をゆだねることは、深い信頼のあらわれである。

当院は、患者さんの権利、尊厳を守り、患者さんを中心としたチーム医療を行い、この信頼に応えることをもって目標とする。全教職員がこの目標に向かって協力し、誇れる品格のある病院を目指し、

当院は

1. 常に心こもる病院でありつづける。
2. 無事故の病院になる。
3. 現在のぞみうる最高の医療をおこなう。

病院の理念を実現させるための具体的な基本方針

患者さんを中心としたチーム医療を行います。

患者さんの権利尊厳を守ることを義務とします。

専門家がひとりの心ある人間として登場し最善をつくします。

事故防止を他の全ての業務に優先させます。

最新の知識と技術をもって世界のどこにも劣らない医療の提供をめざします。

医療とともに希望を贈ります。

地域医療機関としての役割をはたしながら学びつづけ工夫しつつ成長します。

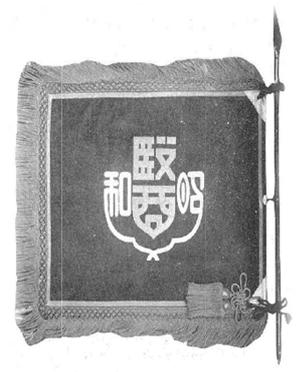


昭和大学 沿革

- 1928年(昭和3年) 昭和医学専門学校を設立
- 1946年(昭和21年) 医科大学設立許可、昭和医科大学となる
- 1951年(昭和26年) 烏山病院開院
- 1959年(昭和34年) 大学院医学研究科博士課程を設置
- 1964年(昭和39年) 昭和大学と改称
薬学部を設立
医学部附属高等看護学校を設置
(後、看護専門学校に名称変更)
- 1965年(昭和40年) 富士吉田校舎を開設
第1学年の全寮制を実施
- 1969年(昭和44年) 大学院薬学研究科修士課程を設置
- 1972年(昭和47年) 烏山病院高等看護学校を設置
(後、看護専門学校に名称変更)
- 1974年(昭和49年) 大学院薬学研究科博士課程を設置
- 1975年(昭和50年) 藤が丘病院開院
- 1977年(昭和52年) 歯学部を設置
歯科病院開院
- 1982年(昭和57年) 豊洲病院開院
- 1983年(昭和58年) 大学院歯学研究科博士課程を設置
- 1990年(平成2年) 藤が丘病院リハビリテーション病院開院
- 1997年(平成9年) 昭和大学医療短期大学を設置
- 1998年(平成10年) 大学院薬学研究科を設置
博士課程(前・後期)
- 2001年(平成13年) 横浜市北部病院開院**
診療放射線専門学校を設置
- 2002年(平成14年) 保健医療学部を設立
- 2006年(平成18年) 豊洲クリニック開院
薬学部薬学科の6年生課程の設置
大学院保健医療学部研究科修士課程を設置
- 2008年(平成20年) 創立80周年
- 2011年(平成23年) 臨床薬理研究所開設
- 2012年(平成24年) 大学院薬学研究科博士課程を設置
大学院保健医療学部研究科博士課程を設置
- 2013年(平成25年) 発達障害医療研究所を開設
- 2014年(平成26年) 江東豊洲病院開院
- 2015年(平成27年) スポーツ運動科学研究所開設



昭和医専の制服制



昭和医専開校記念品



北部病院 沿革

- 2001年（平成13年） 4月 昭和大学横浜市北部病院開院（428床）
（国際内視鏡センター併設）
- 2001年（平成13年）10月 7B病棟開棟、西1階病棟、
西3階病棟開棟（553床）
- 2002年（平成14年） 2月 8A病棟開棟（603床）
5月 8B病棟開棟 全病棟開棟（653床）
- 2003年（平成15年） 9月 病院機能評価認定
10月 4階病棟改修 GCU（12床）開設（661床）
- 2005年（平成17年） 8月 特定承認保険医療機関承認
- 2006年（平成18年） 1月 女性専門外来開設
- 2006年（平成18年） 5月 PET/CT 稼働開始
- 2006年（平成18年） 5月 外来化学療法室開設
- 2008年（平成20年） 9月 病院機能評価更新認定（Ver. 5.0）
- 2010年（平成22年） 1月 GCU（2床）増床（663床）
- 2011年（平成23年） 3月 歯科口腔外科外来開設
3月 地域がん診療連携拠点病院指定
3~4月 東日本大震災における昭和大学救援隊に参加
10月 地域医療支援病院認定
- 2012年（平成24年） 3月 マタニティハウス（28床）開棟（691床）
9月 小児病棟（6床）増床（697床）
女性骨盤底再建センター開設
- 2013年（平成25年） 3月 精神科救急入院（スーパー救急）開始
精神科病棟（50床→42床）改修（689床）
10月 病院機能評価更新認定（3rdG : Ver. 1.0）



初代病院長 黒川高秀先生



病院担当理事（開院時）
荒木日出之助先生揮毫定礎



開院記念のマウスパッド
（林ズビィ'ズストリートに使用している
大理石トラハーフンで作製）

北部病院 建築写真





病院だより 100 号記念号
に寄せて

第 2 代病院長 田口 進



病院だより 100 号記念号
に寄せて

初代事務長(補佐) 上野 洋一

2002 年 8 月、地域の皆様に病院の目標や現状をお知らせし、共に歩むことを想い北部病院だよりが創刊されました。医師の紹介、地域の皆様が参加する院内の催し（公開講座やロビーコンサートなど）また皆様から寄せられたご意見、ご要望などを載せるご意見のページなど、4 ページ綴りの発行でした。開院間がない時期でもあり、待ち時間、接遇などに対して大変厳しいご意見、ご批判をいただきました。ご指摘を厳粛に受け止めお答えを掲載してきました。

2003 年（10 号）より入院患者数、外来患者数、救急搬送数、手術件数などを掲載し情報公開に努めてきました。北部病院は、安全で安心できる医療を提供する取り組みを続けております。院内巡視や院内医療安全フォーラム報告もその都度掲載してきました。患者さんが病院だよりを持っていたり、また、読みましたよと話してくれた時などは大変嬉しく思いました。

2008 年 3 月地下鉄グリーンライン開通に併せたテロ訓練。区役所、消防、警察、地域医師会、区民参加の総合防災訓練にも参加。災害に対する関心も高まってきている折、2011 年 3 月 11 日東日本大震災発生。病院からの医療救援隊報告が 7 月（66 号）に掲載され、防災に対する意識が更に高まりました。

2008 年（50 号）からは 6 ページの紙面となり、職場の紹介、区民まつり、区開催のイベントへの参加記事も多くなり、地域との連携が一層深まったことを感じました。共に仕事をしてきた仲間を事故や病気で失い、地域の方々も参列したお別れ会の模様も掲載されています。北部病院は地域の医療機関と連携した 2 人主治医制を推進しています。2011 年（68 号）からは地域の先生方の紹介を連載し医療連携が更に円滑になる様努めています。

都筑区は 2014 年に区政 20 年を迎え 20 万人を超す大都市へと発展してきています。時代のニーズに合わせ産科病棟（マタニティハウス）を開棟。そのニュースは 2012 年（70 号）で紹介されています。

新聞はその時代を反映するといわれ、北部病院だよりは病院の歴史と共に歩んできた情報誌です。2016 年（97 号）からは表紙のデザインも一新。病院の更なる発展と地域連携を深めることが期待されています。

編集委員、病院の努力、また地域の皆様の支援により、さらに充実した北部病院だよりになることを願っています。

北部病院だより 100 号記念おめでとうございます。私は平成 9 年 7 月から平成 17 年 3 月まで開設準備から開院後は病院運営にかかわってまいりました。

北部病院は、①地域冷暖房システム導入による高い光熱費 ②電子カルテシステム導入にかかる経費 ③600 床の稼働で 1000 床の病院に匹敵する床面積（約 83,000 m²） ④半径約 5 km に藤が丘病院と横浜労災病院がある立地条件等々厳しい条件のなか、着任当時からのようにして収支バランスをとるか日夜悩んだことを思い出します。

当初の基本設計では紙カルテで決定していましたが島根県立中央病院（前瀬戸山病院長）を幾度となく見学に行き電子カルテ化を決定いたしました。カルテの電子化、放射線画像の電子化（PACS）、放射線診断レポートの全件中央読影、すべての部門システムの電子化等々当時私の知る限り電子化された最先端の病院でした。

内科外科の垣根を取り払った臓器別センター方式の採用、できうる限りのアウトソーシング。

また診療組織では藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院・北部病院 3 病院を統合した診療科の在り方を見直し（診療科の統合化）等々、当時できうる限りの新しい取り組みがなされました。

開院して 16 年がたち、現在の医療情勢や労働環境など厳しく難しい時代を迎えましたが常に先手を取って時代を先取りしていかなければなりません。順調に発展してきた北部病院ではありますが、これもスタッフ全員が一丸となって取り組まれてきた結果だと思えます。今後も北部病院開院時の初心を忘れないでほしいといつも願っております。

最後に北部病院開設および運営に尽力されながら交通事故に遭われ志半ばにしてお亡くなりになられた黒川高秀病院長、岩山典子師長、加藤智子看護師係長、生駒ひろみ看護師主任のご冥福をお祈りいたします。



病院だより 100 号記念号
に寄せて

第 2 代看護部長 粕谷 久美子



病院だより 100 号記念号
に寄せて

第 3 代事務長 島地 淳

北部病院だよりが 100 号を迎え、2001 年 4 月に開院後 16 年目と言う月日の流れを感じる今日この頃です。北部病院との関わりは、2000 年の開設準備室に始まり、2001 年の開院から 2010 年 4 月に大学病院に戻る迄の 10 年間でした。開院時、初代黒川病院長と初代松本看護部長の強いリーダーシップの元、病院立ち上げの為に、混成チームの看護集団の一人ひとりが奮闘の日々を経て、私が、2 代目看護部長としてバトンタッチしたのは 2005 年 4 月でした。

当時、病床稼働率約 92~93%、平均在院日数 10 日と言う高速回転の中、看護部の病院経営への更なる貢献と、看護の質をどう担保していくかが常に突きつけられていました。この状況の中、2008 年に開院後 2 回目の日本医療機能評価機構受審の機会が巡ってきました。元々、開院時に病院理念・看護部理念を基に組織化されていた病院・看護部でしたが、準備や確認行為の度に、初代の黒川病院長や松本看護部長それぞれの理念への思いを実感することがしばしばありました。そして、病院・看護部の組織力が評価の結果へと繋がりました。

又、看護部長在職中、最も忘れられない出来事の一つに、3 名の尊い看護師の命が奪われた 2009 年の大きな交通事故があります。開院時から一緒に尽力した 3 名であり、同部署の師長以下役職者 3 名を失い、看護部全体は大きな打撃と喪失感に包まれていました。その中で、当時の田口病院長・井上事務長はじめ各部門のスタッフの方々が静かに看護部門を見守って下さり、支えて下さったことに感謝しております。前述も含め、多くの試練を乗り越え、私自身も育てて頂いた北部病院です。

最後になりますが、北部病院が地域になくはならない病院として、更なる発展を祈念しております。

昭和大学横浜市北部病院は平成 13 年の開院から 16 年目を迎えられました。また、北部病院だよりも回を重ね第 100 号を発刊されるとのこと、誠にありがとうございます。

私が、総務部から北部病院へ異動したのは、開院から 5 年が経過した平成 17 年 4 月でした。以来、平成 19 年 3 月までの 2 年間、事務長職を務めさせていただきました。横浜市が開発に力を注ぎ、この地域の中心となるセンター南の駅前整備がほぼ完成し、街が形成されつつありました。グリーンラインの計画など、さらに開発は広がり周辺地区の工事の槌音が絶えない時期でもありません。

病院は、5 年の経過とともに次第に落ち着き始めていました。それぞれの部門で業務スタイルが確立され、スタッフも日々の業務に慣れ始めた時期でした。ただ、慣れたからこそ修整を必要とする新たな問題も出現してきた頃です。また、外来・入院の患者数は安定した時期に入りつつありました。外来は地域が整備され、人口が増加するのに比例して増えていました。手術件数も大幅に伸びていました。一般病棟の稼働率は毎月 90%を維持していたと記憶しています。

どの場面でも病院は刻々と動いています。この時期は国の医療政策・制度が変革を迎え、DPC への移行期にあたっていました。北部病院も準備病院の期間を経て、平成 18 年から DPC へ移行しました。また、電子カルテの更新時期であったり、新たな機器の導入等々、田口病院長を中心に忙しくバタバタとした日々を送りました。

2 年間という短い期間でしたが、スタッフや仲間恵まれて充実した時間だったと思います。

医療を取り巻く環境が厳しい中、今後も北部病院の皆様のご活躍と、医療人の育成機関として、また地域中核病院としてますますのご発展を祈念いたします。

平成 28 年度秋期公開講座を開催しました。

平成 28 年度秋期市民公開講座は、10 月 22 日（土）に開催されました。

第一部は脳神経外科 谷岡講師より、第二部は栄養科 島居管理栄養士よりご講演いただきました。

約 100 名の方にお越しいただき、盛況のうちに終わることが出来ました。



市民公開講座の様子

司会は内科 石垣准教授でした。

世良田病院長の挨拶から始まり、

2 部構成で行われました。

第一部『脳腫瘍・脳梗塞に関する最新の話』脳神経外科 谷岡 大輔 講師

谷岡講師の専門分野である“頭蓋底外科”とは、頭を切らず、脳に触れずに神経内視鏡で行う最新の脳腫瘍手術です。医療の発展の素晴らしさに目からうろこの連続でした。脳梗塞はいかに時間との勝負か、まさに Time is brain!! であることがよく分かりました。

第二部『健康寿命を延ばすための対策～超高齢社会に向けて～』

栄養科 島居 美幸 管理栄養士

平均寿命に比べて、心身ともに自立し健康的に生活できる健康寿命は 1 割程度短いという統計が厚労省より発表されています。高齢化が進む中、健康長寿であるためには、がん検診・歯科検診などの健康診断を定期的に受け、バランス良い食事と、継続的な運動が不可欠になってきます。

参加者からは、「健康長寿であるために、早速脳ドッグを受診します。」「最新医療に驚きました。勉強になったのでもっと知識を深めるために、ぜひ次回も参加したいです。」という声をいただきました。

次回は平成 29 年 6 月 3 日（土）を予定しております。今回司会をされました、内科 石垣先生をはじめ、2 部構成の予定しておりますので、奮ってご参加ください。



(右から島居管理栄養士、谷岡講師、石垣准教授)

栄

科

よ

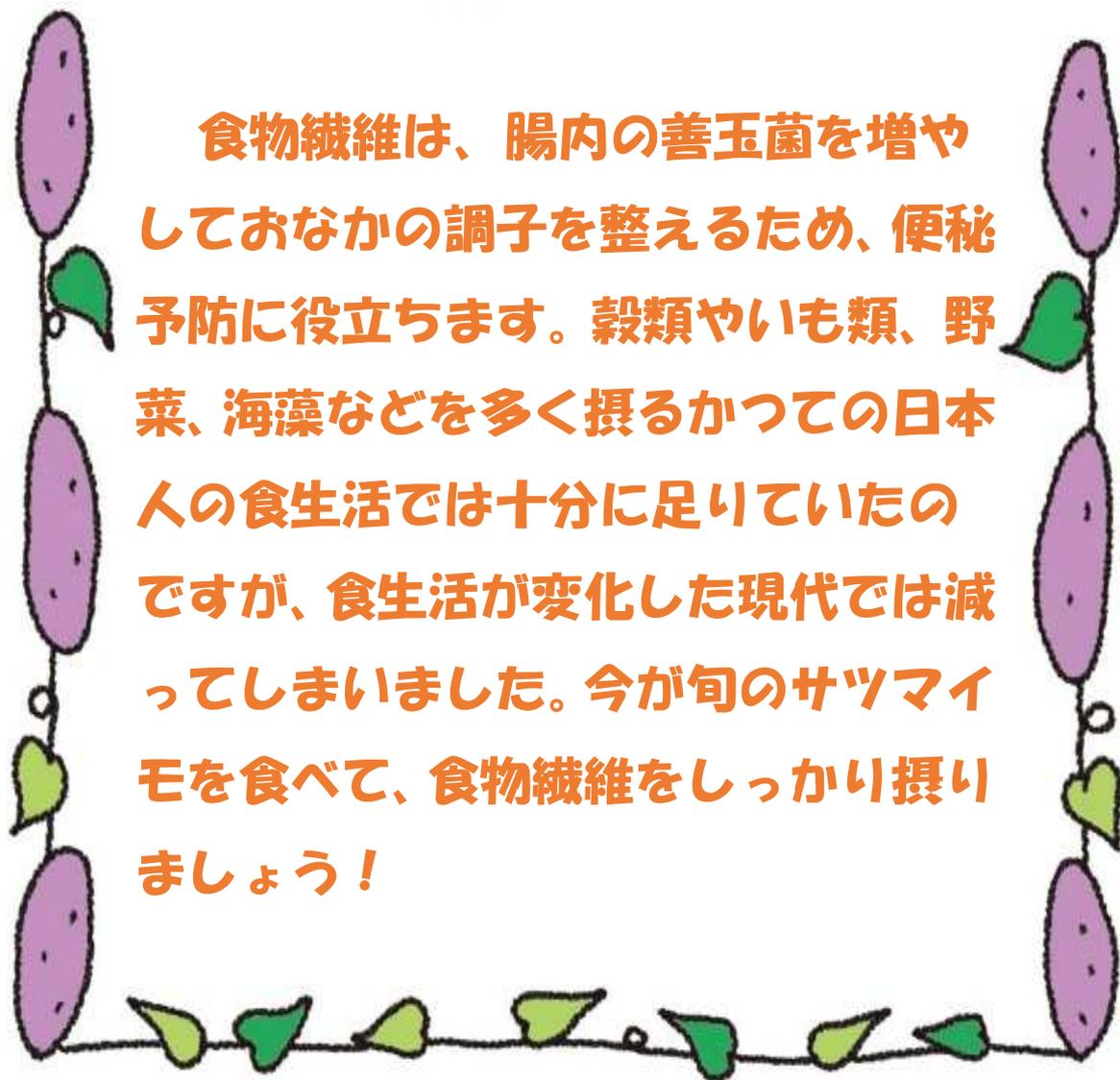
養

だ

い

サツマイモは食物繊維が豊富！

食物繊維は、腸内の善玉菌を増やしておなかの調子を整えるため、便秘予防に役立ちます。穀類やいも類、野菜、海藻などを多く摂るかつての日本人の食生活では十分に足りていたのですが、食生活が変化した現代では減ってしまいました。今が旬のサツマイモを食べて、食物繊維をしっかり摂りましょう！



患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんより頂きましたご意見・ご要望に関しましては、病院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
<p><運用について> 外来担当医表の発行が遅い。月の第一週目に来てもあったことがほとんど無い。予定表であるならば、毎月1日から用意しておいてほしい。</p>	<p>外来担当医表は、当月分については前月末にはホームページに掲載するとともに院内で配布できるよう、今後準備してまいります。</p>
<p><運用について> 消灯時間の厳守をしてほしい。 明るかったために深夜1時まで眠れず、起きてしまっていた。看護師の注意もなかったかと思います。</p>	<p>22時に消灯となりますが、全員の方が眠りにつけるとは考えておりません。 その中で看護師が出来る対応としては、電気は読書灯にさせていただくことと、周囲への配慮をお願いすることだと考えています。 スタッフには、今一度オリエンテーションで夜間の環境を整えることを指導します。</p>
<p><接遇・マナー> 質問がしたくて声をかけたが、作業中らしく顔さえ上げずに返事もなく、対応が非常に悪かった。</p>	<p>不愉快な思いをさせてしまい申し訳ございません。 スタッフは患者さんの対応を第一に心がけておりますが、混雑時は余裕が無く、深く反省しております。 スタッフ一同、研修会の実施を始め接遇マナーの向上に努めてまいります。</p>
<p><感謝> 緊急入院で思いがけず約1ヶ月の入院になりましたが、担当の先生はじめ看護師さん達のご親切には心より感謝しております。医療行為一つひとつに「これは何のために行います」という丁寧な説明があるため、大変安心いたしました。不明な点があったらなんでも聞いてくださいという言葉に患者の立場ではどれだけ不安が取り除かれたことでしょうか。ありがとうございました。</p>	

医師の配属・異動・退職

○新規配属医師（2016年9月）

【新規採用】

・西木戸 修（緩和医療科） 聖マリアンナ医科大学 平成10年卒

【附属施設より】

・村瀬 正彦（こどもセンター） 昭和大学病院 小児科より
・金子 綾太（こどもセンター） 昭和大学病院 小児科より
・荻原 麻里（皮膚科） 東病院 皮膚科より
・楊 美優（外科） 藤が丘病院 形成外科より

【学外研修・国内留学終了】

・朝倉 慶（内科） ・滝口 修平（耳鼻咽喉科）
・小川 悠史（消化器センター）

○異動・退職医師（2016年9月）

【附属施設へ】

・齊田 瑠加（麻酔科） ⇒ 歯学部全身管理歯科学講座歯科麻酔科部門
・城内 和史（皮膚科） ⇒ 東病院皮膚科
・宮本 大（外科） ⇒ 藤が丘病院形成外科

【国内留学・海外留学へ】

・神山 勇太（消化器センター） ・一政 克朗（消化器センター）
・大山 信雄（こどもセンター）

【退職】

・林 靖子（消化器センター） ・寺澤 厚志（循環器センター）
・林 祥子（呼吸器センター） ・矢島 秀起（こどもセンター）
・藤巻 孝一郎（こどもセンター） ・吉田 典世（内科）

前年同月比（）内は1日平均

診療実日数 2015年8月（入院：31日・外来：26日）、2016年8月（入院：31日・外来：25日）

	入院患者数	外来患者数	救急搬送数	手術件数
2015年8月	18,149人(585.5人)	28,574人(1,099.0人)	371件(12.0件)	652件(29.6件)
2016年8月	19,613人(632.7人)	28,653人(1,102.0人)	496件(16.0件)	773件(35.1件)

編集後記

お陰様で『北部病院だより』は、第100号を迎えることができました。

2001年4月に開院した当院ですが、2002年8月に発行責任者を当時の病院長であった黒川先生、編集責任者は広報委員長の島田誠教授（泌尿器科）として創刊されました。2003年4月号からは田口進病院長、2014年5月号から現在までは世良田和幸病院長が発行責任者を務めています。編集責任者は2010年2月号から高橋諄教授（産婦人科）に引き継がれ、衣笠えり子教授（内科）（2010～2013年）、大越章吾講師（消化器センター）（2013年）、北見明彦准教授（呼吸器センター）（2014年）を経て、2015年5月より緒方浩顕准教授（内科）に至っております。

院内各部署から広報委員が結集し、患者さんにいかに有用な情報をお届けできるかをいつも考え、様々な情報を発信してまいりました。今年度からは、当院の広報活動を強化すべく、隔月刊から毎月発刊へ変更しました。加えて、表紙の一新し、内容も見直し、アップデートな疾患、診療情報も加えております。

100号記念号では増頁し、通常のTOPICSや人事異動・診療統計に加え、記念号として歴代の病院長、事務長、看護部長から寄稿を頂くとともに、北部病院の建築写真や15年前の病院周辺写真を掲載しました。まだ15年という短い歴史ですがその一端に少しでも触れていただければと思います。

第1号から読んでいますという嬉しいお言葉も頂戴しております。第100号は1つの通過点であり、200号、300号を目指して、読者の皆様により有益な情報をお届けできるよう、広報委員会一同知恵を絞って考えていきます。

読みたい記事や、医療について知りたいことがありましたら、是非お知らせ下さい。『北部病院だより』に反映させていけるよう考えたいと思っています。

今後とも北部病院だよりをよろしくお願い申し上げます。

広報委員会一同



北部病院だより 第100号記念号

平成28年11月1日発行
発行責任者 世良田 和幸（昭和大学横浜市北部病院長）
編集責任者 緒方 浩顕（広報委員会 委員長）
発行 昭和大学横浜市北部病院
〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1
電話 045-949-7000(代表)
URL : <http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>
北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』
がご覧いただけます。